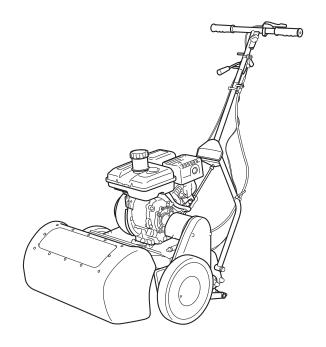
LM4IA

小型ローンガーデンモア

取扱説明書



Serial No. LM41A: 12589-

「必読」 ご使用前に必ず本書をお読みください。



LM41A

ごあいさつ

このたびは、バロネス製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。 本書は、この製品の正しい取り扱い方法と調整方法、また点検方法について説明しています。 いつまでも優れた性能を発揮させ、安全な作業をしていただきますようお願いいたします。 本書を読んで製品の使用方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑のかからない、適切な方法でご使用ください。

この製品を適切かつ安全に使用するのはお客様の責任です。

整備を行う場合は専門知識のある要員によって作業を行ってください。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽にバロネス販売代理店または弊社にお問い合わせください。

お問い合わせの際には、必ずこの製品の型式と製造番号をお知らせください。

この製品を貸与または、譲渡する場合はこの製品と一緒に本書をお渡しください。

株式会社 共栄社

危険警告記号の説明

本書では安全に関する重要な取り扱い上の注意事項について、危険警告記号を使用し、次のように表示しています。



危険警告記号

696cq5-00°

この記号は「危険」「警告」「注意」に関する項目を意味します。

いずれも安全確保のための重要事項が記載してありますので、注意してお読みいただき、十分理解してから作業を行ってください。

これらを遵守されない場合、事故につながるおそれがあります。

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しています。

▲ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うおそれがあるものを示しています。

▲ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるもの、または物的損傷の発生が予測されるものを示しています。

重要

製品の構造などの注意点を示しています。

はじめに

使用上の注意

▲ 注意

本書記載事項は、改良のため予告なしに変更する場合があります。

部品交換を行う場合は、必ず「BARONESS 純正部品」または「弊社指定部品」を使用してください。

純正部品以外の部品を使用して生じた不具合に ついては責任を負いかねます。

この製品を使用する前に下記の取扱説明書を必ずお読みいただき、内容を十分にご理解ください。

- ・バロネス製品の取扱説明書
- ・エンジンの取扱説明書

使用目的

この製品は、庭の芝草刈り作業を目的とした機械です。

この目的以外で使用したり、機械の改造をしないでください。

この製品をその他の目的で使用したり、改造すると大変危険であり、機械を損傷する原因にもなります。

安全	Page 1-1
安全上の注意事項	Page 1-2
廃棄	Page 2-1
リサイクルおよび廃棄処分	Page 2-2
製品概要	Page 3-1
仕様	Page 3-2
各部の名称	Page 3-3
規制ラベル	Page 3-3
警告ラベルと指示ラベル	
取り扱い説明	Page 4-1
使用前の準備	Page 4-2
点検	Page 4-5
締め付けトルク	Page 4-11
使用前の調整	Page 4-14
エンジン始動・停止方法	Page 4-15
操作方法	Page 4-18
移動	Page 4-20
刈り込み	Page 4-20
運搬	Page 4-21
保管	Page 4-21
メンテナンス	Page 5-1
メンテナンス上の注意	Page 5-2
メンテナンス時の機械姿勢	Page 5-2
メンテナンススケジュール	Page 5-3
注油	Page 5-5
メンテナンスの方法	Page 5-6
ベッドナイフ台の脱着	Page 5-10
ベッドナイフの脱着	Page 5-10
車輪の脱着	Page 5-11
ベルトの張り調整	Page 5-12
エアクリーナーの交換	
エンジンオイルの交換	Page 5-13

LM41A

目次

安全上の注意事項	Page 1-2
トレーニング	Page 1-2
運転の前に	Page 1-2
運転操作	Page 1-2
保守と保管	Page 1-3

安全

誤使用や整備不良は負傷や死亡事故につながります。

⚠ 危険

この製品は、安全な取り扱いができるように設計 されており、工場出荷時には十分な試運転や検査 を重ねた上で出荷しております。

事故防止のための安全装置は装備しておりますが、これらは適切な操作、取り扱い、および日常の管理方法が大きく影響します。

この製品を適切に使用または管理しない場合、人 身事故につながるおそれがあります。

以下の安全指示に従い、安全な作業を行ってください。

安全上の注意事項

トレーニング

- 1. 本書や関連する機器の説明書をよくお読みください。
 - 各部の操作方法や警告ラベル、機械の正しい使 用方法に十分慣れておきましょう。
- 2. オペレーター、整備士が日本語を読めない場合 には、オーナーの責任において、本書の内容を 十分に説明してください。
- 3. すべてのオペレーター、整備士に適切なトレー ニングを行ってください。
 - トレーニングはオーナーの責任です。
- 4. 正しい運転知識の無い方には機械を操作させないでください。
 - 地域によっては機械のオペレーターに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
- 5. オーナーやオペレーターは自分自身や他の安全に責任があり、オーナーやオペレーターの注意によって事故を防止することができます。
- 6. 人身事故や器物損壊などについてはオーナー、 オペレーター、整備士が責任を負うものである ことを忘れないでください。
- 7. 本書には、必要に応じて追加の安全情報が記載されています。
- 8. 通常の操作位置から機械の左右を決めています。

<u>運転の前に</u>

1. 作業場所を良く観察し、安全かつ適切に作業するには、どのようなアクセサリーやアタッチメントが必要かを判断してください。 メーカーが認めた以外のアクセサリーやアタッチメントを使用しないでください。

- 2. 作業には安全靴と長ズボン、ヘルメット、保護 メガネ、および聴覚保護具(イヤーマフ)を着 用してください。
 - 長い髪、だぶついた衣服、装飾品などは可動部に巻き込まれる危険があります。
 - また、裸足やサンダルで機械を運転しないでください。
- 3. 機械が使われる区域を点検し、小石、玩具、および針金のような、機械がはね飛ばす可能性のあるすべての物体を取り除いてください。
- 4. 子供を作業区域に入れないでください。オペレーター以外の大人の監視下に置いてください。
- 5. 燃料の取り扱いには十分注意してください。

▲ 警告

燃料は引火性が高いので、以下の注意を必ず守っ てください。

- [1] 燃料は専用の容器に保管する。
- [2] 給油はエンジンを始動する前に行う。 エンジンの運転中やエンジンが熱いときに 燃料タンクのフタを開けたり給油をしない。
- [3] 給油は必ず屋外で行い、給油中は火気厳禁と する。 喫煙しない。
- [4] 燃料がこぼれたらエンジンを始動せずに、機械を別の場所に動かし、気化した燃料ガスが十分に拡散するまで引火の原因となるものを近づけない。
- [5] 燃料タンクや燃料容器のフタは確実に閉める。
- 6. 運転操作装置 (ハンドル、ペダル、レバーなど)、安全装置、防護カバーが正しく取り付けられ、正しく機能しているか点検してください。
 - これらが正しく機能しないときには作業を行わないでください。
- 7. ハンドルに著しいガタがある場合は、必ず調整、修理してから使用してください。
- 8. マフラーが破損したら必ず交換してください。

運転操作

- 1. 有毒な一酸化炭素ガスがたまる可能性のある 閉め切った場所では、エンジンを作動しないで ください。
- 2. 十分に明るい場所でのみ運転し、穴や、隠れた 危険を避けるようにしてください。
- 3. エンジンを始動する前に作業部への駆動をすべて遮断し、走行シフトをニュートラルにしてください。

- 4. 本書の指示に従い、刃から足を十分離した状態でエンジンを始動させてください。
- 5. できるだけ、濡れた草地での運転を避けてください。
- 6. 傾斜地では常に足元に注意してください。
- 7. 走らないでください。
- 8.「安全な斜面」はありません。 芝生の斜面での作業には特に注意が必要です。 転倒を防ぐために
 - [1] 極端に急な傾斜地では作業をしない。
 - [2] 斜面では急停止、急発進しない。
 - [3] 走行クラッチがある機械はクラッチをゆっくりつなぐ。 また坂を下る場合は、走行ギヤを入れた状態にする。
 - [4] 斜面の走行や旋回は低速で行う。
- 9. グラスキャッチャーや他の作業機を使用して機械を操作しているときは、特別な注意を払ってください。

それらは機械の安定性に影響することがあります。

- 10. ガードが破損したり、正しく取り付けられていない状態のままで運転しないでください。
- 11. エンジンのガバナーの設定を変えたり、エンジンの回転速度を上げすぎたりしないでください。

エンジンを規定以上の速度で運転すると、人身 事故を起こす危険が増大します。

- 12. 高温部に触れないように注意してください。
- 13. 運転位置を離れる場合は次を厳守してください。
 - [1] 平らな場所に停止する。
 - [2] 作業部の動力を遮断する。
 - [3] エンジンを止める。
- 14. 以下のような状況になった場合には、エンジン を止めてください。
 - [1] 燃料を給油するとき。
 - [2] グラスキャッチャーを取り外すとき。
 - [3] 刈高を調整するとき。 ただし運転位置から遠隔操作で行える場合 は除きます。
 - [4] 詰まりを取り除くとき。
 - [5] 機械の点検、清掃、整備作業などをすると
 - [6] 機械を離れるとき。
 - [7] 機械に異物がぶつかったり、異常な振動を感じたとき。

機械を再始動する前に機械の損傷を点検・修理してください。

- 15. 作業部や回転部に手足を近づけないでください。
- 16. エンジン作動中は、機械を持ち上げたり、運んだりしないでください。
- 17. 後進するときは、下方と後方の安全に十分注意してください。
- 18. 周囲に人がいるとき、特に子供やペットがいるときは、絶対に作業を行わないでください。
- 19. 旋回するとき、管理道路やカート道、歩道を横断するときは減速し、周囲に十分注意してください。
- 20. 草地以外の場所では、刃の回転を停止してください。
- 21. 移動走行中や作業を休んでいるときは、作業部への駆動を止めてください。
- 22. 作業機を使用する場合、排出方向などに気をつけ、人に向けないようにしてください。 また作業中は機械に人を近づけないでください。
- 23. アルコールや薬物を摂取した状態で運転をしないでください。
- 24. 機械をトラックやトレーラーに積載する場合は、十分注意してください。 積み降ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラーの駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、輪止めをして行ってください。トラックやトレーラーに積載して移動するときは、機械のエンジンを止め、強度が十分あるロープなどで機械を固定してください。あゆみ板を使用する場合は、幅、長さ、強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。
- 25. 機械を輸送する場合は、燃料コックは閉じてください。
- 26. 見通しの悪い曲がり角、植え込みや立ち木などの陰では安全に十分注意してください。
- 27. わき見運転、手放し運転はしないでください。
- 28. エンジンを停止するときにはエンジン回転を 下げてください。 燃料コックが付いている場合は、燃料コックを 閉じてください。
- 29. 落雷のおそれがあるときは、作業を中断して機械から離れてください。

保守と保管

1. 修理・調整・清掃作業の前には、平らな場所で機械を停止し、作業部の駆動を遮断し、エンジンを停止し、念のために点火プラグからワイヤーを抜いてください。

また、機械のすべての動きが完全に停止したことを確認し作業を行ってください。

安全上の注意事項

安全

- 2. 火災防止のため、エンジンやマフラー、燃料タンクの周囲、作業部の周囲、および駆動部に、 余分なグリース、草や木の葉、埃などがたまらないよう注意してください。 オイルや燃料がこぼれた場合はふき取ってください。
- 3. 閉めきった場所に機械を保管する場合は、エンジンが十分冷えていることを確認してください。
- 4. 機械にシートをかけて保管する場合は、過熱部 分が十分冷めていることを確認してから行っ てください。
- 5. 炎や火花がある屋内では、タンクに燃料が入っ た状態で保管しないでください。
- 6. 機械の保管・搬送時には、燃料コックが付いている機械は、燃料コックを閉じてください。
- 7. 炎の近くに燃料を保管しないでください。
- 8. 絶対に訓練を受けていない人に機械を整備させないでください。
- 9. 点検・整備はマフラーやエンジンが冷めてから 行ってください。
- 10. 調整、整備などに必要な工具類は適切な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。
- 11. 機械をジャッキアップする場合は、ジャッキスタンドなどを使用し、確実に支えてください。
- 12. 部品を取り外すときなど、スプリングや油圧などの圧力が一気に解放される場合がありますので、注意してください。
- 13. 配線などが接触したり、被覆のはがれがないように注意してください。
- 14. リールカッターとベッドナイフの点検を行う ときには、安全に十分注意してください。
 - [1] リールカッターとベッドナイフに触れると きは、必ず手袋を着用してください。
 - [2] 刃合わせ調整中は、リールカッターとベッド ナイフの間に指が挟まれないように十分注 意してください。
- 15. 可動部に手足を近づけないでください。 エンジンが作動したままで調整作業をしない でください。
- 16. すべての部品が良好な状態にあるか点検を怠らないでください。 消耗したり破損した部品やラベルは安全のため早期に交換してください。
- 17. 常に機械全体の安全を心掛け、ナットやボルト、ねじ類が十分締まっているかを確認してください。

19. 燃料タンクの清掃が必要になった場合は、屋外 で作業を行ってください。

Page 1-4 安全上の注意事項

リサイクルおよび廃棄処分	Page 2-2
リサイクルについて	Page 2-2
廃棄処分について	Page 2-2

リサイクルおよび廃棄処分

リサイクルについて

バッテリーなどは環境保護および資源の有効活用 のためにリサイクルされることを推奨します。 また、地域によっては法律により義務付けられて います。

廃棄処分について

整備、修理などの作業で出た廃棄物については、 地域の法律に従って適切に処分してください。 (例:廃油、不凍液、ゴム製品、配線など)

仕様	Page	3-2
仕様表	Page	3-2
各部の名称	Page	3-3
規制ラベル	Page	3-3
規制ラベル貼付位置 規制ラベルの説明	_	
警告ラベルと指示ラベル	. Page	3-4
警告ラベルと指示ラベルについて	Page	3-4
警告ラベル・指示ラベル貼付位置	Page	3-4
警告ラベル・指示ラベルの説明	. Page	3-4

製品概要

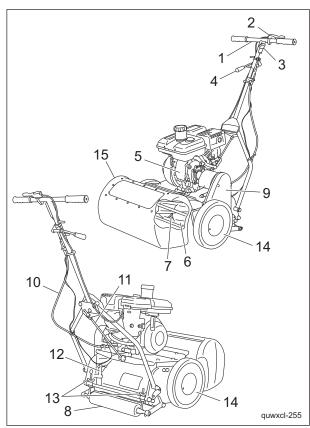
仕様

<u>仕様表</u>

型式			LM41A	
	全長	グラスキャッチャー有	120 cm	
寸法	全幅		57 cm	
	全高	ハンドル	85 cm	
質量	機械 (燃料タンク空)	グラスキャッチャー無	44 kg	
	グラスキャッチュ	r—	2 kg	
最小回転半	- 径		-	
		型式	三菱 GB101LN	
エンジン		種類	空冷 4 サイクル傾斜形横軸 OHV ガソリンエンジン	
		総排気量	98 cm ³ (0.098 L)	
		最大出力	2.2 kW (3.0 PS) /2,000 rpm	
燃料タンク	容量		ガソリン 1.6 dm³(1.6 L)	
燃料消費率	<u> </u>		330 g/kW・h(定格出力時)	
エンジンオ	イル容量		0.4 dm ³ (0.4 L)	
冷却水容量	<u> </u>		-	
油圧タンク	容量		-	
作業幅(刈	幅)		39 cm	
作業範囲((刈高)		6 - 30 mm	
リール刃数	Ţ		6 枚	
ED 手 十 十		走行	メカ方式	
駆動方式		作業部	メカ方式	
速さ(HST	Γ)		-	
速さ(メカ)		メカ) 3.7 km/h (1,500 rpm 時)		
能率			1,154 m²/h(3.7 km/h x 刈幅 x 0.8)	
使用最大傾斜角度			-	
タイヤサイズ			45 x 250	
タイヤ空気圧			-	
バッテリー			-	
スパークプラグ			NGK BP2HS	

出荷時のエンジン最高回転速度は、1,700 rpm

各部の名称

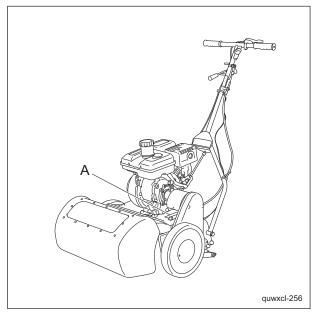


各部の名称 001

1	予部の名称_001
1	ハンドル
2	スロットルレバー
3	エンジンスイッチ
4	クラッチレバー
5	エンジン
6	リールカッター
7	ベッドナイフ
8	ローラー
9	ベルトカバー
10	クラッチワイヤー
11	ハンドル調節ねじ
12	カッター調節ハンドル
13	刈高調節ねじ
14	車輪
15	グラスキャッチャー

規制ラベル

規制ラベル貼付位置



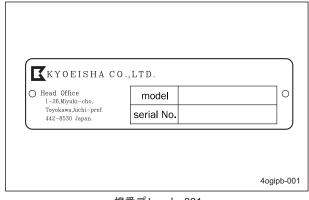
規制ラベル貼付位置_001

A 機番プレート

規制ラベルの説明

機番プレート

機番プレートは、型式と機番が記載されています。



機番プレート_001

各部の名称 Page 3-3

警告ラベルと指示ラベル

警告ラベルと指示ラベルについて

重要

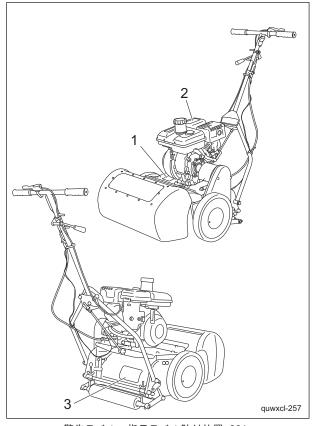
この製品には、警告ラベルと指示ラベルが貼り付けられています。

ラベルはきれいに保ち、損傷や汚れ、はがれが あった場合は、新しいものと交換してください。

交換するラベルの部品番号は、パーツカタログに 記載されております。

販売代理店または弊社に注文してください。

警告ラベル・指示ラベル貼付位置



警告ラベル・指示ラベル貼付位置_001

1	リールモア危険マーク
2	取扱説明書熟読ラベル
3	取扱上の注意

警告ラベル・指示ラベルの説明

リールモア危険マーク

K4205000330

リールモア危険マーク

▲ 警告

手足を切る - 刃が回転しているときは機械から離れてください。

▲ 注意

飛散物 - 人を機械から遠ざけてください。



リールモア危険マーク_001

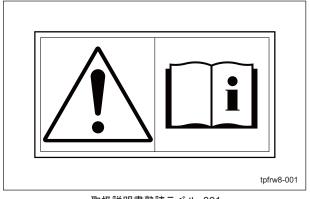
取扱説明書熟読ラベル

K4205001560

取扱説明書熟読ラベル

▲ 警告

取扱説明書をお読みください。



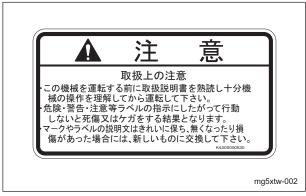
取扱説明書熟読ラベル_001

取扱上の注意

K4205000630

取扱上の注意

取り扱い上の注意について記載されています。



取扱上の注意_001

Page 3-6警告ラベルと指示ラベル

使用前の準備	Page 4-2
ハンドルの取り付け	Page 4-2
エンジンスイッチコードの接続	
クラッチワイヤーの接続	Page 4-3
スロットルワイヤーの取り付け	Page 4-3
芝抑え板の取り付け	Page 4-4
動作確認	Page 4-4
点検	Page 4-5
リールカッターとベッドナイフ	Page 4-5
カバー	Page 4-5
エアクリーナー	Page 4-5
ローラー	Page 4-6
車輪	Page 4-6
ベルト	Page 4-7
ワイヤー	Page 4-7
エンジン周り	Page 4-7
エンジンオイル	Page 4-7
燃料	Page 4-8
燃料ストレーナー	Page 4-9
油漏れ	Page 4-9
グラスキャッチャー	Page 4-10
)) A T T) T	1 agc +-10
締め付けトルク	_
	Page 4-11
締め付けトルク	Page 4-11 Page 4-11
締め付けトルク 標準締め付けトルク	Page 4-11 Page 4-11 Page 4-13
締め付けトルク 標準締め付けトルク 重要締め付けトルク	Page 4-11Page 4-11Page 4-13Page 4-14
締め付けトルク 標準締め付けトルク 重要締め付けトルク 使用前の調整	Page 4-11Page 4-11Page 4-13Page 4-14Page 4-14
締め付けトルク 標準締め付けトルク 重要締め付けトルク 使用前の調整 ハンドルの調整	Page 4-11Page 4-11Page 4-13Page 4-14Page 4-14Page 4-14
締め付けトルク 標準締め付けトルク 重要締め付けトルク 使用前の調整 ハンドルの調整 刃合わせ調整	Page 4-11 Page 4-11 Page 4-13 Page 4-14 Page 4-14 Page 4-14 Page 4-15
締め付けトルク 標準締め付けトルク 重要締め付けトルク 使用前の調整 ハンドルの調整 刃合わせ調整 刈高の調整	Page 4-11 Page 4-11 Page 4-13 Page 4-14 Page 4-14 Page 4-14 Page 4-15 Page 4-15
締め付けトルク 標準締め付けトルク 重要締め付けトルク 使用前の調整 ハンドルの調整 刃合わせ調整 刈高の調整 エンジン始動・停止方法	Page 4-11Page 4-11Page 4-13Page 4-14Page 4-14Page 4-15Page 4-15Page 4-15
締め付けトルク 標準締め付けトルク 重要締め付けトルク 使用前の調整 ハンドルの調整 双合わせ調整 刈高の調整 エンジン始動・停止方法 エンジン始動・停止	Page 4-11Page 4-11Page 4-13Page 4-14Page 4-14Page 4-15Page 4-15Page 4-15Page 4-15
締め付けトルク 標準締め付けトルク 重要締め付けトルク 使用前の調整 ハンドルの調整 刃合わせ調整 刈高の調整 エンジン始動・停止方法 エンジン始動・停止	Page 4-11Page 4-11Page 4-13Page 4-14Page 4-14Page 4-15Page 4-15Page 4-15Page 4-18
締め付けトルク 標準締め付けトルク 重要締め付けトルク 使用前の調整 ハンドルの調整 刈高の調整 エンジン始動・停止方法 エンジン始動・停止 火作方法 機械を離れるときの注意 操作ラベル貼付位置	Page 4-11Page 4-11Page 4-13Page 4-14Page 4-14Page 4-15Page 4-15Page 4-15Page 4-18Page 4-18Page 4-18
締め付けトルク標準締め付けトルク標準締め付けトルク重要締め付けトルク使用前の調整ハンドルの調整双合わせ調整刈高の調整エンジン始動・停止方法エンジン始動・停止集作方法機械を離れるときの注意	Page 4-11Page 4-11Page 4-13Page 4-14Page 4-14Page 4-15Page 4-15Page 4-15Page 4-18Page 4-18Page 4-18Page 4-18
締め付けトルク標準締め付けトルク重要締め付けトルク重要締め付けトルク使用前の調整ハンドルの調整双合わせ調整刈高の調整エンジン始動・停止方法エンジン始動・停止操作方法機械を離れるときの注意操作ラベルの説明操作ラベルの説明	Page 4-11Page 4-11Page 4-13Page 4-14Page 4-14Page 4-15Page 4-15Page 4-18Page 4-18Page 4-18Page 4-18Page 4-18Page 4-18Page 4-18Page 4-18

移動	Page 4-20
移動操作	. Page 4-20
刈り込み	. Page 4-20
刈り込み操作 グラスキャッチャーの脱着	
運搬	Page 4-21
運搬	_
	. Page 4-21

使用前の準備

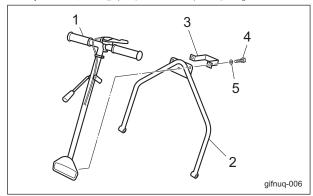
ハンドルの取り付け

重要

ハンドルストッパーが取り付けられていない場合、メンテナンス時にエンジンスイッチを破損することがあります。

必ずハンドルストッパーを取り付けてください。

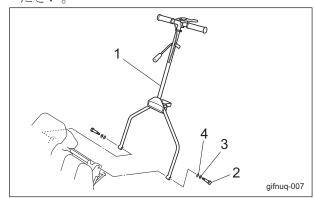
1. ハンドル前にハンドル後とハンドルストッパーを付属のボルト、Sワッシャーで取り付けて、ハンドルを組み立ててください。



ハンドルの取り付け_001

1	ハンドル前
2	ハンドル後
3	ハンドルストッパー
4	ボルト
5	Sワッシャー

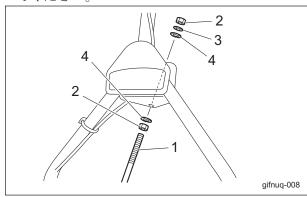
2. 組み立てたハンドルを付属のボルト、S ワッシャー、ワッシャーでフレームに取り付けてください。



ハンドルの取り付け_002

1	ハンドル
2	ボルト
3	Sワッシャー
4	ワッシャー

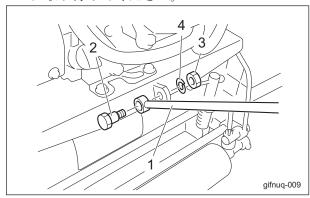
3. ハンドル調節ねじの上部を付属のナット、S ワッシャー、ワッシャーでハンドルに取り付けてください。



ハンドルの取り付け_003

1	ハンドル調節ねじ
2	ナット
3	Sワッシャー
4	ワッシャー

4. ハンドル調節ねじの下部を付属のハンドル固 定ピン、ナット、S ワッシャーでエンジンベー スに取り付けてください。



ハンドルの取り付け_004

		_
	1	ハンドル調節ねじ
	2	ハンドル固定ピン
	3	ナット
	4	Sワッシャー

Page 4-2 使用前の準備

エンジンスイッチコードの接続

重要

エンジンスイッチコードが接続不良であった場合、エンジンスイッチを操作してもエンジンが停止しません。

確実に接続してください。

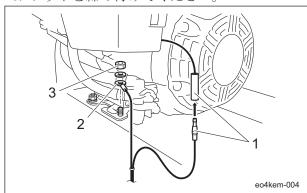
ハンドル取り付け後、エンジンスイッチコードの 接続を行ってください。

接続部は2か所あり、ギボシと圧着端子部分です。 ギボシ:

1. ハンドルからのギボシをエンジン右側から 出ているギボシと接続してください。

圧着端子:

- 1. エンジンを取り付けている右側後部のナットを緩めてください。
- 2. 圧着端子を差し込んでください。
- 3. ナットを締め付けてください。



エンジンスイッチコードの接続_001

1	ギボシ
2	圧着端子
3	ナット

クラッチワイヤーの接続

重要

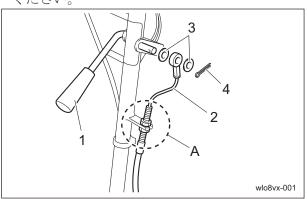
クラッチワイヤーの取り付け位置は、あくまでも 目安です。

Vベルトの張り調整をして位置を決め、ワイヤーを固定してください。

1. 機械に取り付けられているクラッチワイヤー をハンドル側のワイヤー取り付け部に取り付けてください。

参考:

クラッチワイヤーの取り付け目安は、ねじ部の 中間位置に取り付けます。 2. クラッチワイヤーの先端部の穴を付属のワッシャー、割ピンでクラッチレバーに取り付けてください。

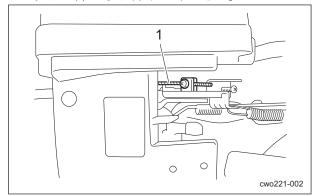


クラッチワイヤーの接続 001

1	クラッチレバー		
2 クラッチワイヤー			
3 ワッシャー4 割ピンA 中間位置(目安)			

スロットルワイヤーの取り付け

1. スロットルワイヤーの先端をエンジンのスロットル部に取り付けてください。



スロットルワイヤーの取り付け_001

1 スロットルワイヤー

使用前の準備 Page 4-3

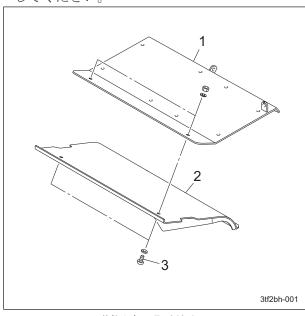
芝抑え板の取り付け

▲ 警告

芝抑え板の取り付けを行うときは、必ずエンジンを停止して行ってください。

芝抑え板を取り付けると、刈り込み時の芝の吹き上がりが軽減され集草効率が向上します。

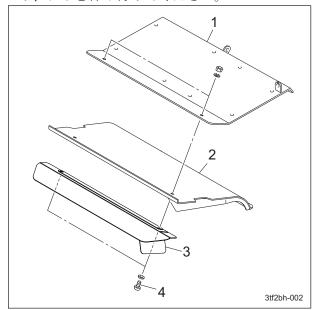
1. リールカバーを固定している 2 本のねじを外してください。



芝抑え板の取り付け_001

1	エンジンベース	
2	リールカバー	
3	ねじ	

2. 芝抑え板とリールカバーをねじで共に取り付け、ねじを締め付けてください。



芝抑え板の取り付け_002

1	エンジンベース	
2 リールカバー		
3 芝抑え板		
4	ねじ	

動作確認

- 1. ハンドルにガタが無いか確認してください。
- 2. エンジンスイッチ、スロットルレバー、クラッチレバーが完全に作動するか確認してください。
- 3. 調整が必要な場合は、調整を行ってください。

Page 4-4 使用前の準備

点検

機械の性能を引き出し、長くご使用いただくため に、メンテナンススケジュールに従って点検をして ください。

リールカッターとベッドナイフ

リールカッターとベッドナイフの点検

▲ 注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがあります ので、手袋を着用してください。

使用頻度や作業中の異物のかみ込み、移動中で の損傷などにより切れにくくなることがありま す。

リールカッターとベッドナイフの点検をし、必要に応じて刃合わせ調整、リールカッターとベッドナイフのバックラッピング、研磨、または交換をしてください。

- 1. リールカッターとベッドナイフの刃先が丸みを帯びて切れにくくなっていないか確認してください。
- 2. リールカッターとベッドナイフが割れていないか確認してください。
- 3. リールカッターとベッドナイフの磨耗量を確認してください。
- 4. リールカッターとベッドナイフが研削焼けし、 変色していないか確認してください。
- 5. リールカッターのリリーフ (2番) があるか確認してください。
- 6. リールカッターと円盤との溶接がはがれていないか確認してください。

カバー

カバーの点検

▲ 警告

点検時にカバーを取り外した場合は、必ず元の位置に確実に取り付けてください。

カバーが取り外されていると、回転物やベルトに 触れたり、異物が飛散してケガをするおそれがあ ります。

- 1. リールカバーおよび各カバーに磨耗や劣化が無いか確認してください。
- 2. リールカバーおよび各カバーに破損が無いか 確認してください。
- 3. リールカバーおよび各カバーの変形による可動部への干渉が無いか確認してください。

4. リールカバーおよび各カバーが所定の位置に 取り付けられているか確認してください。

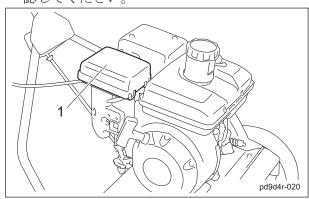
エアクリーナー

エアクリーナーの点検

エアクリーナーは吸入された吸気に含まれている砂塵を取り、シリンダーライナー、ピストンリングの磨耗を防ぎ、エンジンをいつも快調にする装置です。

エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。

- 1. エアクリーナーに損傷が無いか確認してくだ さい。
- 2. エアクリーナーエレメントに汚れが無いか確認してください。



エアクリーナーの点検_001

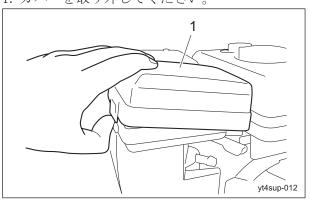
1 エアクリーナー

エアクリーナーの清掃

エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。

エンジンの寿命を延ばすために適切な清掃をするように心掛けてください。

1. カバーを取り外してください。



エアクリーナーの清掃_001

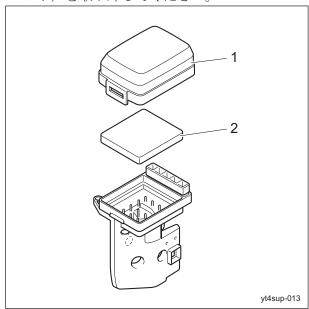
1 カバー

点検

重要

エアクリーナーエレメントは、破損や汚れがある場合は交換してください。

2. エアクリーナーエレメント (ウレタンエレメ ント)を取り外してください。



エアクリーナーの清掃_002

1	カバー
1)	エアクリーナーエレメント(ウレタン
	エレメント)

3. ウレタンエレメントは、引火性の低い灯油などの溶剤で洗浄後、エンジンオイルに浸し、硬く絞ってください。

重要

エアクリーナーエレメントは、植毛面が上側になるように取り付けてください。

- 4. エアクリーナーエレメント (ウレタンエレメ ント)を取り付けてください。
- 5. カバーを取り付けてください。

ローラー

ローラーの点検

使用頻度によるベアリングの磨耗や、水分が入ることでベアリングなどが損傷することにより、ローラーが円滑に回らないことがあります。ローラーの点検をし、必要に応じてオイルシール、ベアリングなどの部品を交換してください。

- 1. ローラーの減り、固着が無いか確認してください。
- 2. ローラー軸が磨耗していないか確認してください。

- 3. オイルシールの磨耗、損傷は無いか確認してください。
- 4. ベアリングの磨耗、さびは無いか確認してく ださい。
- 5. ローラー軸にガタが無いか確認してください。

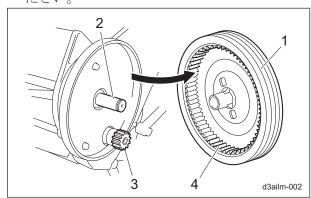
車輪

車輪の点検

使用頻度による部品の磨耗や損傷により、車輪 が円滑に回らないことがあります。

車輪の点検をし、必要に応じて部品を交換してください。

- 1. 車輪の減り、固着が無いか確認してください。
- 2. 車輪軸にガタが無いか確認してください。
- 3. 車輪軸の磨耗や損傷、さびは無いか確認してください。
- 4. ギヤの磨耗や損傷、さびは無いか確認してください。



車輪の点検_001

1	タイヤ
2 車輪軸3 コースターギヤ	

Page 4-6 点検

ベルト

ベルトの点検

▲ 注意

ベルトの点検は、必ずエンジンを停止させた状態 で行ってください。

▲ 注意

点検時にカバーなどを取り外した場合は、必ず元の位置に確実に取り付けてください。 カバーなどが取り外されていると、回転物やベルトに触れて、ケガをするおそれがあります。

- 1. ベルトの中央を指で押さえて、張り具合を確認してください。
- 2. 亀裂、損傷、異常磨耗が無いか確認してください。

ワイヤー

ワイヤーの点検

- 1. ワイヤーに亀裂、損傷が無いことを確認してください。
- 2. 亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。

エンジン周り

エンジン周りの点検

- 1. 燃料系の部品は、取り付け部に緩みやひび割れ、漏れが無いか確認し、必要があれば交換してください。
- 2. マフラーやマフラーの周りに芝草や可燃物が付着している場合は、圧縮空気を吹き付けて 清掃してください。

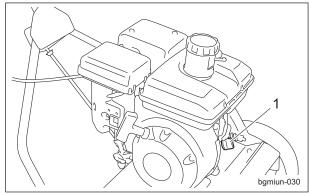
エンジンオイル

エンジンオイルの点検

重要

オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

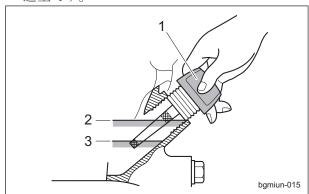
- 1. オイルレベルの点検は、エンジンを停止し、 10 - 20 分後に行ってください。
- 2. エンジンを水平な状態にし、注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。



エンジンオイルの点検_001

オイルレベルゲージ(オイル注入口)

3. エンジンオイル量が上限と下限の間にあれば 適量です。



エンジンオイルの点検_002

	1	オイルレベルゲージ
2 上限		上限
	3	下限

4. オイルレベルゲージを確実にねじ込んでください。

点検

エンジンオイルの補給

重要

エンジンオイルの入れ過ぎは、エンジンの破損事故の原因となります。

重要

絶対に異なった種類のエンジンオイルを混ぜないでください。

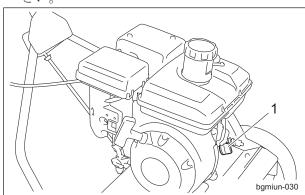
重要

エンジンオイルは、API サービス分類の SE 級以上で、使用環境(気温)に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

重要

オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

- 1. オイルレベルゲージを取り外してください。
- 2. オイル注入口から新しいエンジンオイルの油 面がオイルレベルゲージの上限になるまでエ ンジンオイルを入れてください。
- 3. エンジンを水平な状態にし、注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。
- 4. オイルレベルゲージを確実にねじ込んでください。



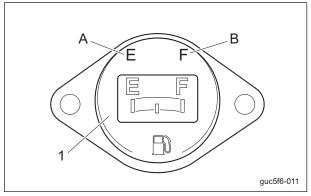
エンジンオイルの補給_001

1 オイルレベルゲージ(オイル注入口)

燃料

燃料の点検

機械を水平な状態にし、燃料タンク上の燃料 ゲージにて、量の確認をしてください。



燃料の点検_001

1	燃料ゲージ
Α	EMPTY
В	FULL

燃料の給油

▲ 注意

燃料ゲージの FULL の位置以上に給油はしないでください。

燃料を入れ過ぎると、傾斜地での走行・作業時などにタンクキャップより燃料があふれる可能性があります。

▲ 注意

燃料給油時は、火気厳禁です。 喫煙しないでください。

▲ 注意

燃料の給油はエンジンを停止し、十分冷えてから 行ってください。

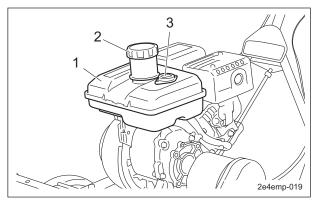
▲ 注意

高温部に触れないように注意してください。

燃料タンク上の燃料ゲージが、EMPTY に近づいた ら早めに燃料(ガソリン)の給油を行ってくだ さい。

燃料タンク容量は、約 1.6 dm³ (1.6 L) です。

Page 4-8 点検



燃料の給油_001

1	燃料タンク
2	タンクキャップ
3	燃料ゲージ

燃料ストレーナー

燃料ストレーナーの点検

燃料ストレーナーは、燃料を供給する配管系統 の途中にあり、意図せず混入している物質を取 り除きます。

- 1. 燃料漏れが無いか確認してください。
- 2. 傷、汚れが無いか確認してください。

燃料ストレーナーの清掃

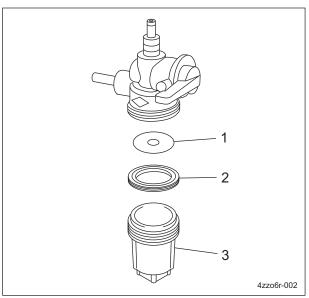
燃料ストレーナーは、埃やゴミがたまると燃料 の流れが悪くなります。

定期的に清掃を行ってください。

重要

燃料ストレーナーの清掃は、埃やゴミの無い清潔な場所で行ってください。

- 1. 燃料フィルターの燃料コックを閉じてください。
- 2. 燃料コックのストレーナーカップを取り外してください。
- 3. ストレーナーカップ内部とフィルターを引火性の低い灯油などの溶剤で洗浄してください。
- 4. 圧縮空気で乾燥させてください。



燃料ストレーナーの清掃_001

1	フィルター	
2 パッキン		
3	ストレーナーカップ	

重要

取り付けるときは、チリや埃が付着しないように 注意してください。

燃料内にチリや埃などが混入すると、燃料の流れ が悪くなります。

- 5. 元のように正しく組み付けてください。
- 6. 燃料タンクに燃料を満たし、燃料コックを開いてください。
- 7. 燃料漏れが無いか確認してください。

油漏れ

各部油漏れの点検

50 時間くらい使用すると、締め付け部の緩みなどが発生し、オイルやグリースが漏れる可能性があります。

必ず増し締めを行ってください。

機械の下を確認し、オイルやグリースなどの漏れが無いか確認してください。

点検

グラスキャッチャー

グラスキャッチャーの点検

使用頻度によるグラスキャッチャーの磨耗や損傷、変形などにより、芝草がきちんと回収できなくなることがあります。

- 1. グラスキャッチャーに磨耗や劣化が無いか確認してください。
- 2. グラスキャッチャーに破損が無いか確認してください。
- 3. グラスキャッチャーの変形による可動部への 干渉が無いか確認してください。

Page 4-10 点検

締め付けトルク

重要

締め付けトルク一覧を参照してください。 異常な締め付け、オーバートルクでの締め付けな どで生じた不具合については、弊社では責任を負 いかねます。

標準締め付けトルク

ボルト、ねじ類

重要

各部には、ボルト止めが多く使われております。 使用初期はボルト、ナットなどの緩みの出る場合がありますので、必ず増し締めを行ってください。

特別指示の無いボルト、ナットは、適切な工具により適正な締め付けトルクで締め付けてください。 締め付けが強すぎると「ねじ」は緩んだり、破損したりします。

締め付け強さは、ねじの種類、強度、ねじ面や座面の摩擦などで決めております。

一覧表は、亜鉛メッキまたはパーカー処理したボルトを対象としております。

めねじの強度が弱い場合は適用できません。

さびていたり、砂などが付着している「ねじ」は、使用しないでください。

所定の締め付けトルクを与えても締め付け不足になります。

ねじ面の摩擦が大きくなり、締め付けトルクのほとんどを摩擦損失し、締め付ける力になりません。 「ねじ」が水や油で濡れている場合は、通常の締め付けトルクで締めないでください。

ねじが濡れるとトルク係数が小さくなり、締め過ぎになります。

締め過ぎると、ねじが伸びて緩んだり、破損することがあります。

一度、大きな負荷がかかったボルトは、使用しないでください。

インパクトレンチで締めるときは、熟練が必要です。

できるだけ安定した締め付け作業ができるように練習してください。

締め付けトルク Page 4-11

		一般ボルト	
	強度区分 4.8		
呼び径		M (4 T) (4.8 tib3yb-001
	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	3 - 5	30.59 - 50.99	26.55 - 44.26
M6	7 - 9	71.38 - 91.77	61.96 - 79.66
M8	14 - 19	142.76 - 193.74	123.91 - 168.17
M10	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34
M12	52 - 67	530.24 - 683.20	460.25 - 593.02
M14	70 - 94	713.79 - 958.52	619.57 - 831.99
M16	88 - 112	897.34 - 1142.06	778.89 - 991.31
M18	116 - 144	1,182.85 - 1,468.37	1,026.72 - 1,274.54
M20	147 - 183	1,498.96 - 1,866.05	1,301.10 - 1,619.73
M22	295	3,008.12	2,611.05
M24	370	3,772.89	3,274.87
M27	550	5,608.35	4,868.05
M30	740	7,545.78	6,549.74

			調質	ボルト			
	強度区分 8.8				強度区分 10.9		
呼び径	8 8 T (8.8) tib3yb-002			11 (11T) (10.9) tib3yb-003			
	N-m	kgf-cm	lb-in	N-m	kgf-cm	lb-in	
M5	5 - 7	50.99 - 71.38	44.26 - 61.96	7 - 10	71.38 - 101.97	61.96 - 88.51	
M6	8 - 11	81.58 - 112.17	70.81 - 97.36	14 - 18	142.76 - 183.55	123.91 - 159.32	
M8	23 - 29	234.53 - 295.71	203.57 - 256.68	28 - 38	285.52 - 387.49	247.83 - 336.34	
M10	45 - 57	458.87 - 581.23	398.30 - 504.51	58 - 76	591.43 - 774.97	513.36 - 672.68	
M12	67 - 85	683.20 - 866.75	593.02 - 752.34	104 - 134	1,060.49 - 1,366.40	920.50 - 1186.03	
M14	106 - 134	1,080.88 - 1,366.40	938.21 - 1,186.03	140 - 188	1,427.58 - 1,917.04	1,239.14 - 1,663.99	
M16	152 - 188	1,549.94 - 1,917.04	1,345.35 - 1,663.99	210 - 260	2,141.37 - 2,651.22	1,858.71 - 2,301.26	
M18	200 - 240	2,039.40 - 2,447.28	1,770.20 - 2,124.24	280 - 340	2,855.16 - 3,466.98	2,478.28 - 3,009.34	
M20	245 - 295	2,498.27 - 3,008.12	2,168.50 - 2,611.05	370 - 450	3,772.89 - 4,588.65	3,274.87 - 3,982.95	
M22	_	_	_	530	5,404.41	4,691.03	
M24	_	_	_	670	6,831.99	5,930.17	
M27	_	_	_	1,000	10,197.00	8,851.00	
M30	_	_	_	1,340	14,628.78	11,860.34	

参考:

「細目ねじ」についても、同じ数値とする。

Page 4-12 締め付けトルク

重要締め付けトルク

機種別締め付けトルク

LM41A

次のボルト、ナットは下記のトルクで締め付けてください。

ねじ緩み止め剤は、ネジロック中強度(スリーボンド1322相当品嫌気性封着剤)を塗布してください。

部位	コード来 旦	品名	締め付けトルク			わじ經れよめ到
中小江	コード番号		N-m	kgf-cm	lb-in	ねじ緩み止め剤
ベッドナイフ	K0071000222	6 調質さら小ねじ 12	7 - 9	71.38 - 91.77	61.96 - 79.66	_
ステー	K0041080202	8+さら小ねじ 20	_	_	_	0

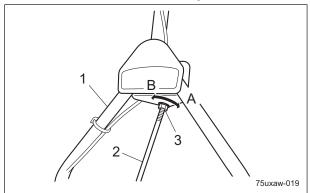
締め付けトルク Page 4-13

使用前の調整

ハンドルの調整

作業者の作業位置に合わせてハンドル高さを調整することができます。

- 1. ハンドル調節ねじ上部のナットを緩めてください。
- 2. ハンドルを上下させ、任意の高さに調整してください。
- 3. ナットを締め付けてください。



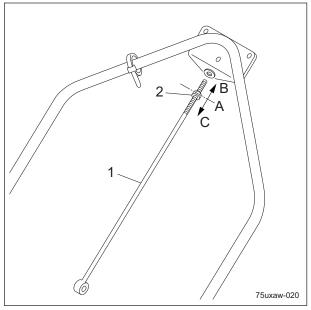
ハンドルの調整 001

1	ハンドル
2	ハンドル調節ねじ
3	ナット
Α	高い
В	低い

参考:

ハンドルの高さを中間位置に調整する場合は、ハンドル調節ねじのねじ山の中心にナットの位置を設定します。

ねじ山を目安にナットの位置を調整してください。



ハンドルの調整_002

1	ハンドル調節ねじ
2	ナット
Α	中間位置
В	高い
С	低い

刃合わせ調整

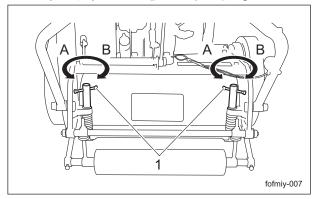
▲ 注意

リールカッターやベッドナイフを取り扱うときは、手袋などで手を保護してください。 ただし、リールカッターを回すときに手袋などが 巻き込まれ、手や指を切るおそれがありますの で、十分注意してください。

- 1. エンジンを停止してください。
- 2. リールカッターとベッドナイフの刃合わせ調整は、カッター調節ハンドルで刃先全面を軽く接触させ、新聞紙 (1 2 枚) がけばだたず切れるように調整してください。
- 3. 短冊型に裂いた新聞紙1 2 枚をリールカッターとベッドナイフの間に90°に入れ、モアユニットを左から見てリールカッターを反時計回転に手で回して切り、切れ味を調べます。リールカッターの全面(3 4 か所程度)にわたり、切れ味を調べてください。
 - ・ 刃先にすき間が生じた場合 カッター調節ハンドルを左に回すと(反時計 回り)、リールカッターとベッドナイフの接 触は強くなります。

Page 4-14 使用前の調整

- リールカッターが固くて回転しにくい場合 カッター調節ハンドルを右に回すと(時計回 り)、リールカッターとベッドナイフの接触 は弱くなります。
- 調整しても切れない場合 バックラッピングをしてください。



刃合わせ調整_001

1	カッター調節ハンドル
Α	強い
В	弱い

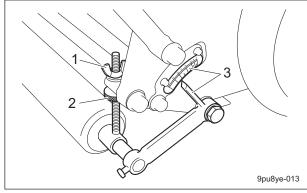
刈高の調整

重要

刈高は、刈高プレートの目盛に合わせて左右同じ 高さに設定してください。

刈高は、6 - 30 mm の間で自由に調整できます。 刈り込み作業に応じて、刈高を調整してください。

- 1. 左右の蝶ナットを緩めください。
- 2. 刈高調整ロックネジを回してローラーを上下させ、任意の刈高に調整してください。
- 3. 左右の蝶ナットを締め付けてください。



刈高の調整 001

1	蝶ナット
2	ロックねじ
3	目盛

エンジン始動・停止方法

エンジン始動・停止

エンジン始動手順

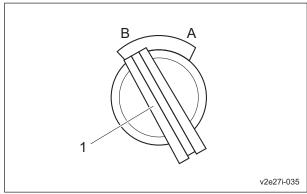
▲ 注意

エンジンを始動する前に機械や周囲に人や障害物が無いことを確認してください。

▲ 注意

エンジンクラッチカバーが所定の位置に取り付けられているか確認してください。

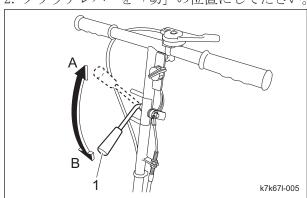
1. エンジンスイッチが「OFF」になっていること を確認してください。



エンジン始動手順 001

	-	
1	エンジンスイッチ	
Α	ON	
В	OFF	

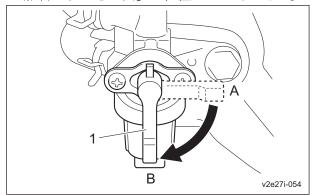
2. クラッチレバーを「切」の位置にしてださい。



エンジン始動手順_002

1	クラッチレバー
Α	「入」
В	「切」

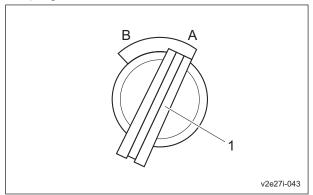
3. 燃料コックを「開」の位置にしてください。



エンジン始動手順_003

1	燃料コック
Α	「閉」
В	「開」

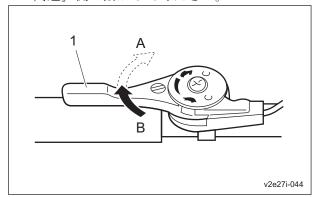
4. エンジンスイッチを「ON」の位置にしてくだ さい。



エンジン始動手順_004

1	エンジンスイッチ
Α	ON
В	OFF

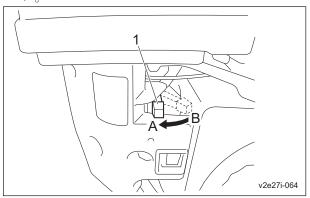
5. スロットルレバーを「低速」側から半分程度「高速」側へ動かしてください。



エンジン始動手順_005

1	スロットルレバー
Α	高速
В	低速

6. チョークレバーを「閉」の位置にしてください。



エンジン始動手順_006

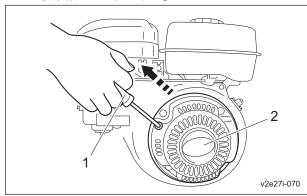
1	チョークレバー
Α	「閉」
В	「開」

重要

エンジン始動後はスターターグリップをゆっく りと元の位置に戻してください。

スターターグリップを引いたまま手を放すと、機 器の損傷につながります。

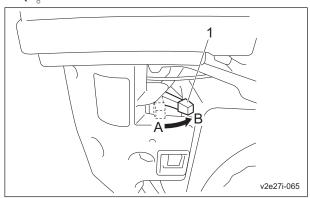
7. スターターグリップを勢いよく引き、エンジンを始動してください。



エンジン始動手順_007

1	スターターグリップ
2	リコイルスターター

8. チョークレバーを「開」の位置にしてください。

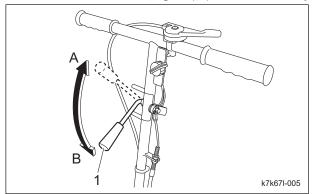


エンジン始動手順_008

1	チョークレバー
А	「閉」
В	「開」

エンジン停止手順

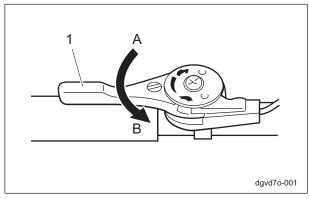
1. クラッチレバーを「切」の位置にしてださい。



エンジン停止手順_001

	1	クラッチレバー
	Α	「入」
	В	「切」

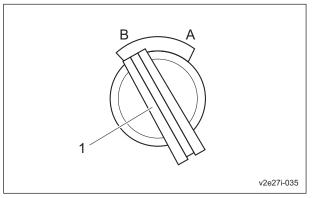
2. スロットルレバーを「低速」の位置にしてください。



エンジン停止手順_002

1	スロットルレバー
Α	高速
В	低速

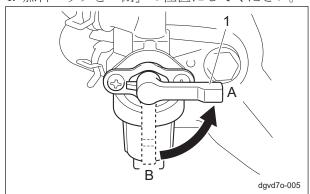
3. エンジンスイッチを「OFF」の位置にしてくだ さい。



エンジン停止手順_003

1	エンジンスイッチ
Α	ON
В	OFF

4. 燃料コックを「閉」の位置にしてください。



エンジン停止手順_004

	_
1	燃料コック
Α	「閉」
В	「開」

操作方法

機械を離れるときの注意

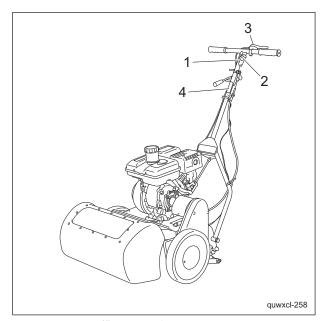
▲ 注意

機械を水平な場所に駐車してください。傾斜地での駐車は絶対にしないでください。

▲ 注意

エンジンが確実に停止していることを確認してください。

操作ラベル貼付位置



操作ラベル貼付位置_001

1	エンジンスイッチマーク	
2	エンジンスイッチマーク	
3	エンジン回転マーク	
4	クラッチ指示マーク	

操作ラベルの説明

エンジンスイッチマーク

K4203000680

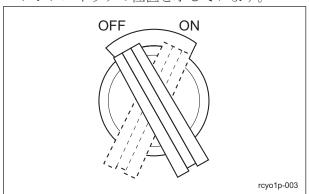
エンジンスイッチマークエンジンスイッチの位置を示しています。



エンジンスイッチマーク_001

エンジンスイッチマーク

エンジンスイッチマーク エンジンスイッチの位置を示しています。



エンジンスイッチマーク_001

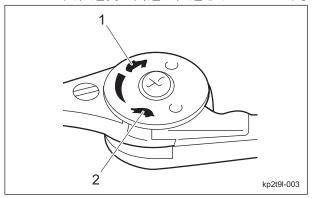
Page 4-18 操作方法

エンジン回転マーク

_

エンジン回転マーク

エンジン回転速度の高速・低速を示しています。



エンジン回転マーク_001

1	高速
2	低速

クラッチ指示マーク

K4209000430

クラッチ指示マーク

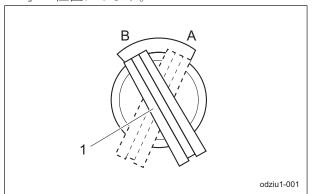
メインクラッチの位置を示しています。



クラッチ指示マーク_001

エンジンスイッチ

エンジンスイッチは、ハンドルにあります。 エンジンを始動するときはスイッチを「ON」の位 置にし、エンジンを停止するときはスイッチを 「OFF」の位置にします。



エンジンスイッチ_001

1	エンジンスイッチ
Α	ON
В	OFF

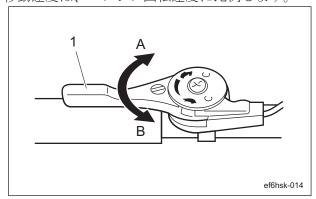
スロットルレバー

スロットルレバーは、ハンドルにあり、エンジン 回転速度の高低をレバーで調整します。

スロットルレバーは、「高速」側にするとエンジン 回転速度が高くなり、「低速」側にするとエンジン 回転速度が低くなります。

参考:

移動速度は、エンジン回転速度に比例します。



スロットルレバー 001

^-	X11717001 _001										
1	スロットルレバー										
Α	高速										
В	低速										

操作方法 Page 4-19

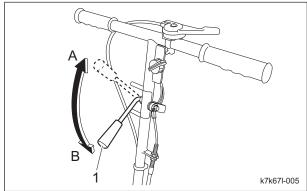
取り扱い説明

クラッチレバー

▲ 注意

急な操作を行わないように注意し、ゆっくり操作 してください。

クラッチレバーはハンドルにあります。 クラッチレバーを手前に引き上げると「入」にな り前進およびリールカッターが回転します。 クラッチレバーを前に倒すと「切」になり、機械 の走行およびリールカッターは停止します。



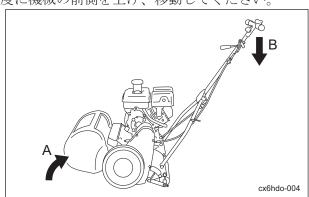
クラッチレバー_001

1	クラッチレバー
Α	「入」
В	「切」

移動

移動操作

ハンドルを下に押えて刃物が地面に接触しない程 度に機械の前側を上げ、移動してください。



移動操作_001

Α	上げる
В	下げる

刈り込み

刈り込み操作

▲ 注意

急発進・急停車は、絶対行わないでください。

▲ 注意

急な傾斜地では作業を行わないでください。

▲ 注意

刈り込み作業は、必ず場所にあった速さで行って ください。

凸凹面の刈り込み作業は、刈り込み速さを遅くして行ってください。

▲ 注意

グラスキャッチャーは必ず装着してください。 作業中は刈り芝を適時、排出してください。

- 1. グラスキャッチャーを装着します。
- 2. エンジンを始動します。
- 3. クラッチレバーをゆっくりと手前に引き上げ、 刈り込みを始めます。

参考:

作業は、1,500 rpmを目安に行ってください。 刈り込み方向を変えて重ね刈りをすれば、きれい に刈ることができます。

また、一度刈った場所に刃幅の約1/3を重ねて刈ると、刈り残しやムラがなくきれいに刈ることができます。

Page 4-20 移動

グラスキャッチャーの脱着

▲ 注意

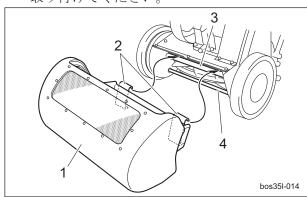
グラスキャッチャーの脱着はエンジンを停止し て行ってください。

グラスキャッチャーの取り外し:

- 1. グラスキャッチャー取付金の下側を前ステーパイプから離します。
- 2. グラスキャッチャー取付金の上側を車軸ステーから外し、グラスキャッチャーを取り外してください。

グラスキャッチャーの取り付け:

- 1. グラスキャッチャー取付金の上側を車軸ステーに掛けます。
- 2. グラスキャッチャー取付金の下側を前ス テーパイプに当てて、グラスキャッチャーを 取り付けてください。



グラスキャッチャーの脱着_001

	-
1	グラスキャッチャー
2	掛け金
3	車軸ステー
4	前ステーパイプ

運搬

運搬方法

▲ 注意

機械を積み降ろしするときは、滑らない靴を着用 し、ゆっくりと走行してください。

重要

ロープを掛けて機械を固定するときは、ロープを エンジンに掛けないでください。

重要

ロープを掛けて機械を固定するときは、ワイヤー を曲げないように注意してください。

この機械をトラックやトレーラーに積載する場合は、十分注意してください。

積み降ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラーの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、輪止めをして行ってください。

トラックやトレーラーに積載して移動するときは、 この機械のエンジンを停止し、強度が十分ある ロープなどで機械を固定してください。

あゆみ板を使用する場合は、幅、長さ、強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。

保管

保管について

重要

保管前に注油する場合は、ベルトカバー内部のベルトには絶対注油しないでください。 故障の原因となります。

1. 清掃

保管する前に機械をきれいに清掃してください。

泥や草屑、油汚れなどをきれいに落としてくだ さい。

2. 格納場所

雨のかからない乾燥した場所で、カバーなどをかけてください。

以下の条件に該当する場所には保管しないでください。

- ・雨ざらしになる場所
- ・高温になる場所
- ・子供の手が届く場所(簡単に持ち出せる場所)
- ・ 湿気が多い場所(湿度や温度が急変する場所)
- ・直射日光の当たる場所
- ・ 揮発性物質の置いてある場所

運搬 Page 4-21

取り扱い説明

長期保管について

重要

保管前に注油する際、ベルトカバー内部のベルト には絶対注油しないでください。

故障の原因となります。

1. 清掃

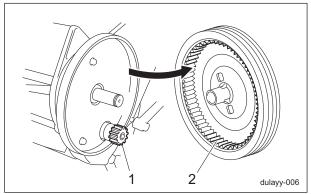
保管する前に機械をきれいに清掃してください。

泥や草屑、油汚れなどをきれいに落としてくだ さい。

2. 注油

各注油箇所にグリース注入、塗布と注油をして ください。

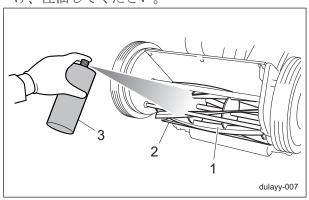
ホイールギヤとコースターギヤの歯車をきれいに清掃し、グリースを塗布してください。



長期保管について_001

1	コースターギヤ
2	ホイールギヤ

刃先や可動部に潤滑スプレーなどを吹きかか け、注油してください。



長期保管について_002

1	リールカッター
2	ベッドナイフ
3	潤滑スプレー

3. 燃料の抜き取り 燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。

4. 格納場所

雨のかからない乾燥した場所で、カバーなどをかけてください。

以下の条件に該当する場所には保管しないでください。

- ・雨ざらしになる場所
- ・高温になる場所
- ・ 子供の手が届く場所(簡単に持ち出せる場所)
- ・ 湿気が多い場所(湿度や温度が急変する場所)
- ・直射日光の当たる場所
- ・ 揮発性物質の置いてある場所

Page 4-22 保管

メンテナンス上の注意	Page 5-2
メンテナンス時の機械姿勢	Page 5-2
メンテナンススケジュール	Page 5-3
調整値	Page 5-4
注油	Page 5-5
注油について	
注油位置	
バックラッピング リールカッターの研磨リールカッターの交換 ベッドナイフの交換	Page 5-8 Page 5-9
ベッドナイフ台の脱着	
	Page 5-10
ベッドナイフ台の脱着 ベッドナイフ台の取り外し	Page 5-10 Page 5-10 Page 5-10
ベッドナイフ台の脱着 ベッドナイフ台の取り外し ベッドナイフ台の取り付け	Page 5-10 Page 5-10 Page 5-10 Page 5-10 Page 5-10 Page 5-10
ベッドナイフ台の脱着 ベッドナイフ台の取り外し ベッドナイフ台の取り付け ベッドナイフの脱着 ベッドナイフの取り外し	Page 5-10
ベッドナイフ台の脱着 ベッドナイフ台の取り外し ベッドナイフ台の取り付け ベッドナイフの脱着 ベッドナイフの取り外し	Page 5-10 Page 5-10 Page 5-10 Page 5-10 Page 5-10 Page 5-10 Page 5-11 Page 5-11
ベッドナイフ台の脱着 ベッドナイフ台の取り外し ベッドナイフ台の取り付け ベッドナイフの脱着 ベッドナイフの取り外し	Page 5-10 Page 5-10 Page 5-10 Page 5-10 Page 5-10 Page 5-11 Page 5-11 Page 5-11
ベッドナイフ台の脱着	Page 5-10 Page 5-10 Page 5-10 Page 5-10 Page 5-10 Page 5-11 Page 5-11 Page 5-11 Page 5-12 Page 5-12

メンテ<u>ナンス上の注意</u>

▲ 注意

実施するメンテナンスを熟知してから行ってく ださい。

重要

メンテナンスを行う際に必要な工具は、目的にあったものを使用してください。

重要

常に安全に、最高の性能でお使い頂くために、交換部品やアクセサリーは BARONESS 純正部品をお求めください。

純正部品以外の部品をご使用になった場合、製品 保証を受けられなくなる場合がありますので、ご 注意ください。

メンテナンス時の機械姿勢

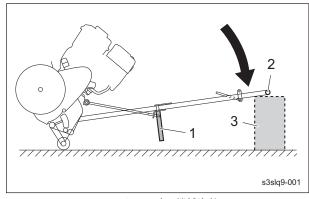
重要

機械のメンテナンスを行うときなど、ハンドル側を下にして倒した姿勢(ハンドル側を下にして倒した角度がエンジン直立状態から35°以上倒れた状態)で長時間放置すると、エンジンの燃焼室にエンジンオイルが入り、エンジン不調の原因となることがあります。

また、ハンドルを立てた位置に戻してからオイルが戻るのに十分な時間を確保するため、10分経過してからエンジンを始動してください。

- ・ハンドル高さの設定位置が中間位置より低い場合:
 - 1. 水平な場所で、ハンドルを下に押えて、機械を倒してください。
 - 2. ハンドルストッパーを地面に接地させて、機械を固定してください。
- ・ハンドル高さの設定位置が中間位置より高い場合:
 - 1. ハンドルストッパーが地面に設置しない高さ のブロックを用意してください。
 - 2. 水平な場所で、ハンドルを下に押えて、機械を倒してください。

3. ハンドルグリップをブロックの上に置いて、 機械を固定してください。



メンテナンス時の機械姿勢 001

	, 1
1	ハンドルストッパー
2	グリップ
3	ブロック

Page 5-2 メンテナンス上の注意

メンテナンススケジュール

LM41A

メンテナンススケジュールは、以下のとおりです。

○・・・点検、調整、補給、清掃

●・・・交換(初回)

△・・・交換

メンテナンス項目			作業前	作業後	10 時間ごと	20 時間ごと	25 時間ごと	50 時間ごと	100 時間ごと	300 時間ごと	ĵͿ	1年ごと	2年ごと	必要に応じて	備考
	*2	各種ボルトナットの締め付け	0												
	*2	燃料レベルの点検	0												
	*2	液漏れ(油、燃料)の点検	0												
	*2	エンジンオイルレベルの点検	0												
	*2	エアクリーナーの点検		0										Δ	
٦	*2	エンジンおよびマフラー・排気管 周辺の清掃		0											
137	*2	エンジンオイルの交換						Δ							初回 25 h
H ソ	*2	点火プラグの点検							0					Δ	
''	*2	燃料ストレーナー(コック)の清 掃							0						
	*1	燃料タンク・燃料ろ過網の清掃								0					
	*1	バルブクリアランスの点検・調整								0					
	*1	燃焼室のカーボン除去								0					
		燃料ホースとクランプバンドの 点検										0		Δ	
		車輪の状態の点検	0												
		各部の損傷の点検	0												
		ボルト、ナットの締め付けの点検	0												
		クラッチレバーの作動の点検	0												
		ハンドル位置の調整	0												
		カバーの状態の点検	0												
能		駆動部の清掃		0											
駆動部		軸摺動部の注油						0							
		車輪部の注油												0	バックラッピング時、長 期保管時
		V ベルトの張りの調整						0	0						初回 50 時間
		電気配線の状態(損傷、汚損、接 続部の緩み)の点検										0			
		スロットルワイヤーの点検												0	
		クラッチワイヤーの点検												0	
り部		リールカッターとベッドナイフ の状態の点検	0											-	
り取		カバーの状態の点検	0												
X V		ローラーの状態の点検	0												

メンテナンス項目			作業前	作業後	10 時間ごと	20 時間ごと	25 時間ごと	50 時間ごと	100 時間ごと	300 時間ごと	500 時間ごと	1年ごと	2年ごと	必要に応じて	備考
		刃合わせ	0												
		刈高の確認	0												
		各部の損傷の点検	0												
⊭		ボルト、ナットの締め付けの点検	0												
り部		刈り取り部の清掃		0											
刈り取		ギヤケース内ベアリングの交換												Δ	
₹		ギヤケース内オイルシールの交 換												Δ	
		バックラッピング												0	
		刃(リールカッター)の研磨												0	必要に応じて刃の研磨 または交換

- ・*1:点検整備は、お近くのバロネス販売店に相談の上、その指示に従ってください。
- ・*2:エンジンの取扱説明書を参照ください。
- ・消耗品については、保証値ではありません。

調整値

Vベルト	10.0 mm (0.20 in)	ベルトを 25 N(2.5 kgf)で押したと
V \\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	10.0 mm (0.39 in)	きのたわみ量

注油

注油について

可動部が固着したり、破損したりする可能性がありますので、潤滑剤を塗布する必要性があります。 潤滑剤を使用する場所は、「注油位置」に記載されています。

潤滑剤を塗布してください。

<u>注油位置</u>

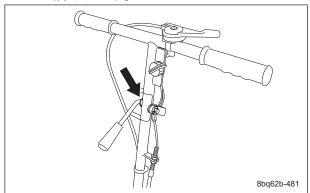
次の場所に潤滑剤を塗布してください。

1. 軸摺動部

50時間ごとに潤滑剤を塗布してください。

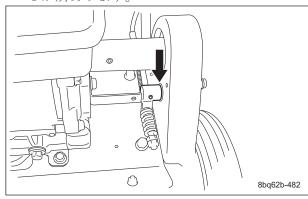
[1] クラッチレバー支点部

1か所あります。



注油位置_001

[2] テンションレバー支点部 1 か所あります。



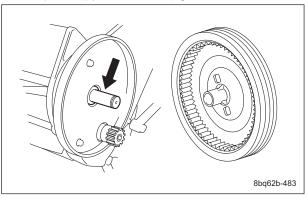
注油位置_002

2. 車輪部

バックラッピング時および、長期保管時にグリースを塗布してください。

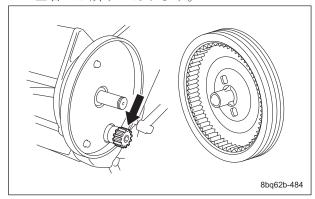
[1] 車輪軸部

左右1か所ずつあります。



注油位置_003

[2] ギヤ部 左右1か所ずつあります。



注油位置_004

注油 Page 5-5

メンテナンスの方法

バックラッピング

バックラッピングとは、包丁の刃を研ぐようなもので、リールカッターとベッドナイフの刃先が丸みを帯びて切れづらくなった場合、ペースト状の研磨剤を塗って、回転刃を逆回転させながら刃先を研ぐ作業のことです。

しかし、バックラッピングは応急処置的なもので、 完全に切れ味は戻りません。

リールカッターとベッドナイフの刃先が丸みを帯 びて切れ味が悪くなった場合は、以下の手順で バックラッピングを行ってください。

▲ 警告

バックラッピング作業中はリールカッターが回転しています。

可動部に手足を近づけないでください。

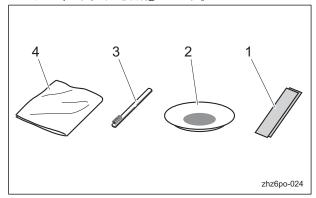
▲ 注意

二人以上でバックラッピング作業を行わないでください。

▲ 注意

機械が動かないように、平らな安定した場所で作業してください。

1. 新聞紙を短冊型に裂いたもの、バックラッピン グパウダーをオイルで混合した研磨剤または、 ジェルコンパウンド (バロネス純正研磨剤)、 ブラシ、布切れを用意します。



バックラッピング_001

1	新聞紙
2	研磨剤
3	ブラシ
4	布切れ

参考:

研磨剤の混合比は体積比で、バックラッピング パウダー (#200 - #400) 1: オイル3 - 4で す。

- 2. エンジンを停止してください。
- 3. 機械からグラスキャッチャーを取り外してく ださい。
- 4. 左側車輪を取り外してください。
- 5. 機械を後方へ静かに倒してください。

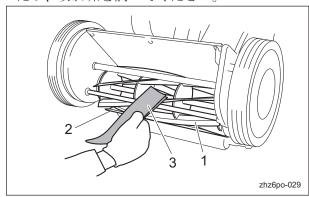
▲ 注意

リールカッターやベッドナイフを取り扱うときは、手袋などで手を保護してください。 ただし、リールカッターを回すときに手袋などが 巻き込まれると、手や指を切るおそれがあります ので十分注意してください。

重要

切れ味は、刈り込み後の刃合わせ状態で調べてください。

- 6. 短冊型に裂いた新聞紙 1 2 枚をリールカッターとベッドナイフの間に 90° に入れ、モアユニットを左から見てリールカッターを反時計回転に手で回して切り、切れ味を調べてください。
- 7. リールカッターの全面(3-4か所程度)にわたり、切れ味を調べてください。



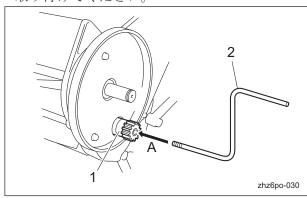
バックラッピング_002

	—
1	リールカッター
2	ベッドナイフ
3	新聞紙

- 8. 切れ味を調べ、切れ味の良いところにチョークなどで印を付けてください。
- 9. ラッピングハンドルを用意してください。

Page 5-6 メンテナンスの方法

10. リール軸にラッピングハンドルをねじ込んで 取り付けてください。



バックラッピング_003

1	リール軸
2	ラッピングハンドル
Α	ねじ込む

11. ラッピングハンドル回して、モアユニットを左 から見てリールカッターを時計回転(逆回転) に回してください。

重要

リールカッターは (正面から見て) 右側が左側より、早く磨耗するため、研磨剤を塗布するときは、必ず左から右へブラシを動かしてください。

12. ブラシに研磨剤をつけ、チョークの印を目印に してリールカッターの切れ味の良い部分の上 面に均一に塗布してください。(切れ味の悪い 箇所には絶対に塗らないでください。)

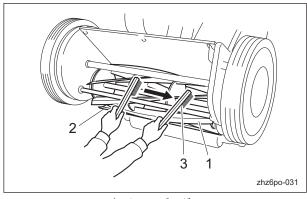
【例】

A :

左右が切れて、中央部の切れが悪い場合は、左右に研磨剤を塗ります。

В:

左右を切れるようにすると中央部の刃合わせがきつくなる場合は、中央部に研磨剤を塗ります。



バックラッピング 004

1	リールカッター
2	ベッドナイフ
3	ブラシ

- 13. リールカッターをしばらく回転させ、接触音が しなくなったらラッピングハンドルを回すの をやめ、リールカッターの回転を停止させてく ださい。
- 14. ラッピングハンドルを取り外してください。
- 15. リールカッターに塗布した研磨剤を洗い流すか、布切れでふき取り、切れ味を調べてください。
- 16. 手順 6. 15. の作業を繰り返し、リールカッターの全面 (3-4 か所程度) が均一な切れ味になるようにバックラッピングしてください。
- 17. 最後に研磨剤を、リールカッターの刃先全幅に 塗って、仕上げのバックラッピングを行ってく ださい。

重要

洗浄するときは、エンジンや電装品に水がかから ないように注意してください。

- 18. 研磨剤を水できれいに洗い流します。
- 19. 切れ味の確認をしながら、刃合わせ調整を行ってください。

メンテナンスの方法 Page 5-7

リールカッターの研磨

リールカッターの研磨とは、リールカッターの真円を出す作業と、リリーフ(2番)を作る作業のことです。

バックラッピングを行っても、切れ味が戻らない場合や、リリーフ(2番)がなくなったときにする作業です。

バックラッピングを行っても切れ味が戻らない場合や、リリーフ(2番)がなくなり、ベタ当たりしバックラッピングに時間がかかるようになった場合は、研磨を行ってください。

また、リールカッターが磨耗して円錐形になって しまった場合は、円筒研磨し、円筒形に戻してく ださい。

研磨機をお持ちでない場合、リールカッターの研磨は、購入販売店または弊社までご依頼ください。

▲ 注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。 手足を切るおそれがありますので、取り扱いには 十分注意してください。

▲ 注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがあります ので、手袋を着用してください。

リールカッターの研磨の基準は、以下のとおりです。

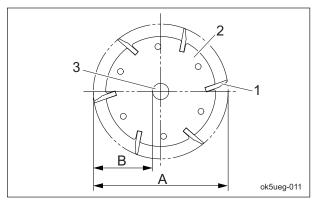
ただし、基準値は目安であり、リールカッターの 性能を保証するものではありません。

1. リールカッターは、研磨後、リールカッターの 外径寸法が使用限界寸法以上残る場合、研磨を 行うことができます。

新品		使用限界	
	寸法:B		寸法:B
寸法:A	(刃先外径	寸法:A	(刃先外径
(リールカッ	部-リールカ	(リールカッ	部-リールカ
ター外径)	ッター軸外	ター外径)	ッター軸外
	径部)		径部)
141 mm	62 mm (2.44	131 mm	57 mm (2.24
(5.55 in)	in)	(5.16 in)	in)

参考:

リールカッター軸の外径寸法は、17 mm (0.67 in) です。

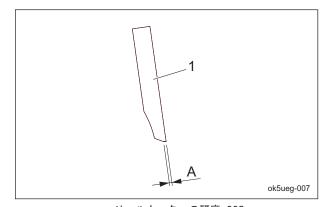


リールカッターの研磨_001

1	リールカッタ一刃
2	リールカッター円盤
3	リールカッター軸
Α	リールカッター外径
В	刃先外径部-リールカッター軸外径部

- 2. リールカッターが以下の状態になった場合は、研磨が必要です。
 - [1] リールカッターの外径研磨幅(ベッドナイフ接触部の長さ)が、使用限界寸法以上になった場合。

リールカッター外径寸	リールカッター外径研	
法 (新品)	磨幅の使用限界寸法	
141 mm (5.55 in)	2.5 mm(0.10 in)(メーカー推奨)	



リールカッターの研磨_002

-	
1	リールカッター刃
Α	リールカッター外径研磨幅

- [2] 刃先が極端に丸くなり、バックラッピングでは刃のエッジが立てられない状態になった場合。
- [3] リールカッターが磨耗して円錐形になり、刃合わせ調整ができなくなった場合。

Page 5-8 メンテナンスの方法

リールカッターの交換

▲ 注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。 手足を切るおそれがありますので、取り扱いには 十分注意してください。

▲ 注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがあります ので、手袋を着用してください。

リールカッターの交換の基準は、以下のとおりです。

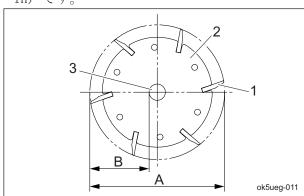
ただし、基準値は目安であり、新品状態のリール カッターの性能を保証するものではありません。

1. リールカッターの外径寸法が使用限界寸法以下になった場合。

新品		使用限界	
	寸法:B		寸法:B
寸法:A	(刃先外径	寸法:A	(刃先外径
(リールカッ	部-リールカ	(リールカッ	部-リールカ
ター外径)	ッター軸外	ター外径)	ッター軸外
	径部)		径部)
141 mm	62 mm (2.44	131 mm	57 mm (2.24
(5.55 in)	in)	(5.16 in)	in)

参考:

リールカッター軸の外径寸法は、17 mm (0.67 in) です。



リールカッターの交換_001

	-
1	リールカッター刃
2	リールカッター円盤
3	リールカッター軸
А	リールカッター外径
В	刃先外径部-リールカッター軸外径部

ベッドナイフの交換

▲ 注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。 手足を切るおそれがありますので、取り扱いには 十分注意してください。

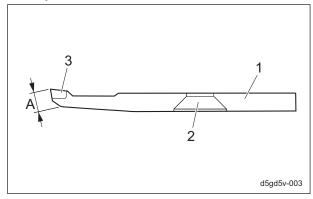
▲ 注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがあります ので、手袋を着用してください。

ベッドナイフの交換の基準は、以下のとおりです

- 1. リールカッターを研磨した場合。
- 2. リールカッターを交換した場合。
- 3. ベッドナイフが磨耗した場合。 ハイス付刃

ベッドナイフのチップが無くなる前に交換してください。



ベッドナイフの交換_001

× · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
1	ベッドナイフ
2	取り付け穴
3	チップ
Α	前面(フロントフェイス)

メンテナンスの方法 Page 5-9

ベッドナイフ台の脱着

ベッドナイフ台の取り外し

▲ 注意

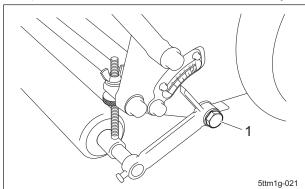
リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。 手足を切るおそれがありますので、取り扱いには 十分注意してください。

▲ 注意

機械前部を持ち上げて作業するときは落下のお それがあります。

確実に機械をサポートしてください。

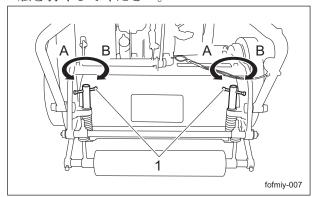
1. 左右のカッターピンを取り外してください。



ベッドナイフ台の取り外し_001

1 カッターピン

2. 左右のカッター調節ハンドルを右に回して (時計回り)、リールカッターとベッドナイフの接触を弱くしてください。



ベッドナイフ台の取り外し_002

1	カッター調節ハンドル
Α	強い
В	弱い

3. ベッドナイフ台 COMP (ベッドナイフ台にベッド ナイフが取り付いた状態) を取り外してくださ い。

ベッドナイフ台の取り付け

▲ 注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。 手足を切るおそれがありますので、取り扱いには 十分注意してください。

▲ 注意

機械前部を持ち上げて作業するときは落下のお それがあります。

確実に機械をサポートしてください。

ベッドナイフ台の取り付けは、取り外し手順の逆 の方法で行ってください。

ベッドナイフの脱着

ベッドナイフの取り外し

▲ 注意

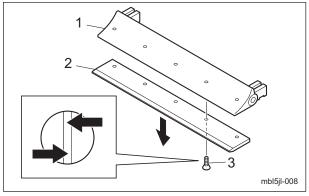
リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。 手足を切るおそれがありますので、取り扱いには 十分注意してください。

▲ 注意

機械前部を持ち上げて作業するときは落下のお それがあります。

確実に機械をサポートしてください。

- 1. ベッドナイフ台 COMP を取り外してください。
- 2. ベッドナイフ台 COMP を安定した台の上に乗せてください。
- 3. ショックドライバーまたはポンチでねじを取り外し、ベッドナイフを取り外してください。



ベッドナイフの取り外し_001

1	ベッドナイフ台
2	ベッドナイフ
3	ねじ

ベッドナイフの取り付け

▲ 注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。 手足を切るおそれがありますので、取り扱いには 十分注意してください。

▲ 注意

機械前部を持ち上げて作業するときは落下のおそれがあります。

確実に機械をサポートしてください。

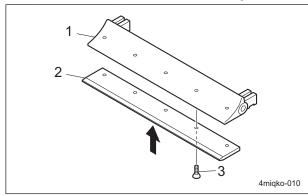
重要

ベッドナイフ台のナイフ取付面をキズつけないように注意してください。 サビや汚れを落としてください。

重要

ねじは新品に交換してください。

1. ショックドライバーでねじを均一に締め付け、 ベッドナイフを取り付けてください。

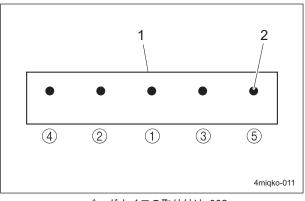


ベッドナイフの取り付け_001

1	ベッドナイフ台
2	ベッドナイフ
3	ねじ

参考:

ベッドナイフの取り付けねじは、初めに中心を ねじ止めし、以後中央から外側に向かって左右 交互にねじ止めしてください。

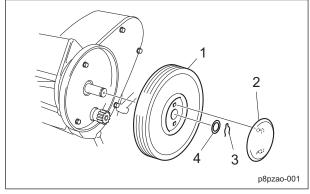


ベッドナイフの取り付け_002

1	ベッドナイフ
2	ねじ

車輪の脱着

- 1. マイナスドライバーなどを使用して、車輪のホイールカバーを取り外してください。
- 2. 車軸の先端の止め輪を取り外してください。
- 3. ワッシャーと車輪を取り外してください。
- 4. 反対側の車輪も同様に取り外してください。



車輪の脱着 001

平無の加省_001	
1	車輪
2	ホイールカバー
3	止め輪
4	ワッシャー

車輪の脱着 Page 5-11

ベルトの張り調整

▲ 警告

ベルトの調整を行う場合は、必ずエンジンを停止してください。

▲ 注意

カバーなどを取り外した場合は、必ず元の位置に 確実に取り付けてください。

カバーなどが取り外されていると、回転物やベルトに触れたり、異物が飛散してケガをするおそれがあります。

重要

ベルトの張りは、調整値を確認してください。 規定値であるかの確認は、ベルトを数回転させた 後に行ってください。

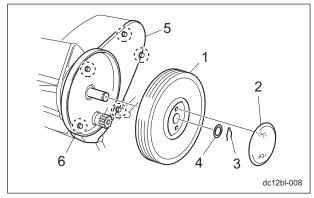
使用頻度により、ベルトが緩いと踊ったり、スリップする可能性があります。

また、張り過ぎると損傷が早くなる可能性があります。

必要に応じて調整し、いつも適正な張り具合に保ってください。

Vベルト

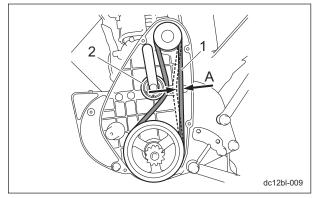
- 1. 以下の要領でベルトの張り具合を確認してください。
 - [1] 左側の車輪を取り外してください。
 - [2] ベルトカバーのボルト(5本)を取り外してください。
 - [3] ベルトカバーを取り外してください。



Vベルト_001

1	車輪
2	ホイールカバー
3	止め輪
4	ワッシャー
5	ベルトカバー
6	ボルト

[4] クラッチレバーを「入」の位置にし、ベルトの張り具合を確認してください。 ベルトの張りは、ベルトのプーリー間の中央 (イラストの矢印部)を指で軽く25 N(2.5 kgf)で押さえて10.0 mm(0.39 in) たわむ 程度であれば適正です。



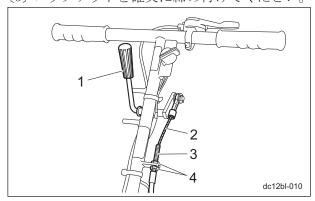
V ベルト_002

1	Vベルト
2	テンションプーリー
Α	10.0 mm (0.39 in)

- 2. ベルトの張りが適正でない場合は、以下の要領で調整してください。
 - ベルトの張りは、クラッチワイヤーのアジャストボルトで調整します。
 - [1] クラッチレバーを「入」の位置にしてください。
 - [2] ロックナットを緩めてください。
 - [3] アジャストボルトでクラッチワイヤーの張りを調整し、ベルトの張りが適正になるように調整してください。
 - [4] クラッチレバーを「切」の位置にしたとき、 ベルトがスリップしないですぐに止まるこ とを確認してください。

Page 5-12 ベルトの張り調整

[5] ロックナットを確実に締め付けてください。



Vベルト_003

1	クラッチレバー
2	クラッチワイヤー
3	アジャストボルト
4	ロックナット

エアクリーナーの交換

エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。

エンジンの寿命を延ばすために適切な時期に交換をするように心掛けてください。

- 1. エアクリーナーエレメントの交換時期は、以下 のとおりです。
 - [1] エアクリーナーエレメントは、メンテナンス スケジュールに従って交換してください。
 - [2] 汚れの多い場合は、規定時間に達していなくても交換してください。
- 2. エアクリーナーエレメントの交換は、エアク リーナーの清掃と同様の手順で行ってください。 「エアクリーナーの清掃」(Page 4-5)

エンジンオイルの交換

▲ 注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれが ありますので、十分注意してください。

重要

エンジンオイルを交換する場合は、エンジンオイルを容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

重要

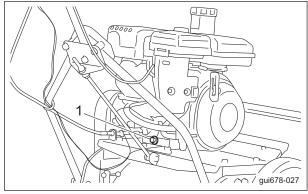
エンジンオイルは、API サービス分類の SE 級以上で、使用環境(気温)に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

重要

オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

エンジンオイルが汚れていたり、埃の多い環境で運転した場合や、エンジンを高負荷あるいは高温で運転した場合は、オイル交換の回数を増やしてください。

- 1. 機械を平らな場所に移動させ、エンジンを停止してください。
- 2. エンジンオイルが温まっている間にドレンプラ グを取り外し、エンジンオイルを容器に抜き 取ってください。



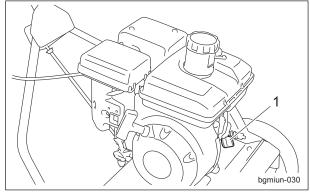
エンジンオイルの交換_001

1 ドレンプラグ

- 3. ドレンプラグをエンジンに再度取り付けてください。
- 4. オイルレベルゲージを取り外してください。
- 5. オイル注入口から新しいエンジンオイルを入れ てください。

エンジンオイル量は、 0.4 dm^3 (0.4 L) です。

6. エンジンを水平な状態にし、注入口からオイル レベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量 を調べてください。



エンジンオイルの交換_002

1 オイルレベルゲージ(オイル注入口)

7. オイルレベルゲージで量を確認した後、不足していれば追加してください。

- 8. オイルレベルゲージを確実にねじ込んでください。
- 9. 機体の下を確認し、油漏れが無いことを確認してください。

Page 5-14 エンジンオイルの交換



Quality on Demand



株式会社 〒442-8530 愛知県豊川市美幸町1-26

TEL (0533) 84 - 1221 FAX (0533) 84 - 1220